

緑丘小学校の校区には災害時どのような危険がひそんでいるのでしょうか。「DIG」という方法があることを、防災センターで知った広報部員が、その方法を実際に体験してみました。

## DIGとは?

災害が起きた場合を想定し、どのように避難するか、複数の人で意見を出しあい、地図に書き込むことを行う訓練です。 ※DIG=簡易型災害図上訓練 (D:Disaster(災害) I:Imagination(想像) G:Game(ゲーム))

### ① 説明を受ける

災害が起きた時、何が起り得るのか。防災の専門講師からスライドを用いて説明を受けます。



具体例のスライド



インタラクシオン  
研究所  
安田 睦子さん

### ② 地震発生を想定

午後6時に大きな揺れ! どんな行動をとる?



- きみならどんな行動をとる?
- どこへ、だれと避難する?
- 何をもっていく?

付箋にそれぞれの意見を書き、項目ごとにはりつけていきます。

### ③ 地図上に書き込む

避難場所までの経路・ポイントをチェック



- ① 自宅・避難場所・病院・食料品店・防災資材保管場所・緊急貯水槽・防火水槽の位置にシールをつけて確認。
- ② 自宅から収容避難場所までの安全な避難経路を考える。

#### 安全な道を見つけるポイント

- 大きく見通しのきく道を選ぶ。
- がけ崩れや浸水が起こりそうな道、倒壊しそうな建物・看板・塀があるところは避ける。

### ④ 危険を感じる場所を歩いてみる



中央区南11条西23丁目付近 旭ヶ丘1丁目  
通称:百段階段



中央区界川1丁目あたりの  
老朽化した橋

[DIGのお問合わせ] 札幌市中央区役所内 市民部総務企画課へ

## DIGを体験して

普段気にとめることなく近くを歩いている看板が地震が起きたときは非常に危険だということにビックリでした。そして、いろいろな人と意見を出しあうことによって、自分だけでは気付かないことに気付くことができました。



特集の  
まとめ

災害時にも、みどりっこのいのちを守りたい。そんな思いから、今回の特集を企画しました。災害が起こった時、想像もしなかったような事が生じます。普段の「当たり前」が、災害時には当たり前ではなくなる、3.11でそのような経験をされた方も多いのではないのでしょうか。そんな時に大切になるのは、自分で「いのちを守る」という自立心。それと平时に家族で話し合っ決めておくこと。普段からの備えと身の回りにあるものを上手につかう知恵と工夫なのかもしれません。毎日の暮らし方の中に自分を助けてくれる本当の防災があるといえるでしょう。

「いつも」ではなくなる「もしも」の時、家族はどう行動するのか。この特集が自分たちの住んでいる地域に目を向け、家族で話し合うきっかけとして役立ってくれれば、と思います。